

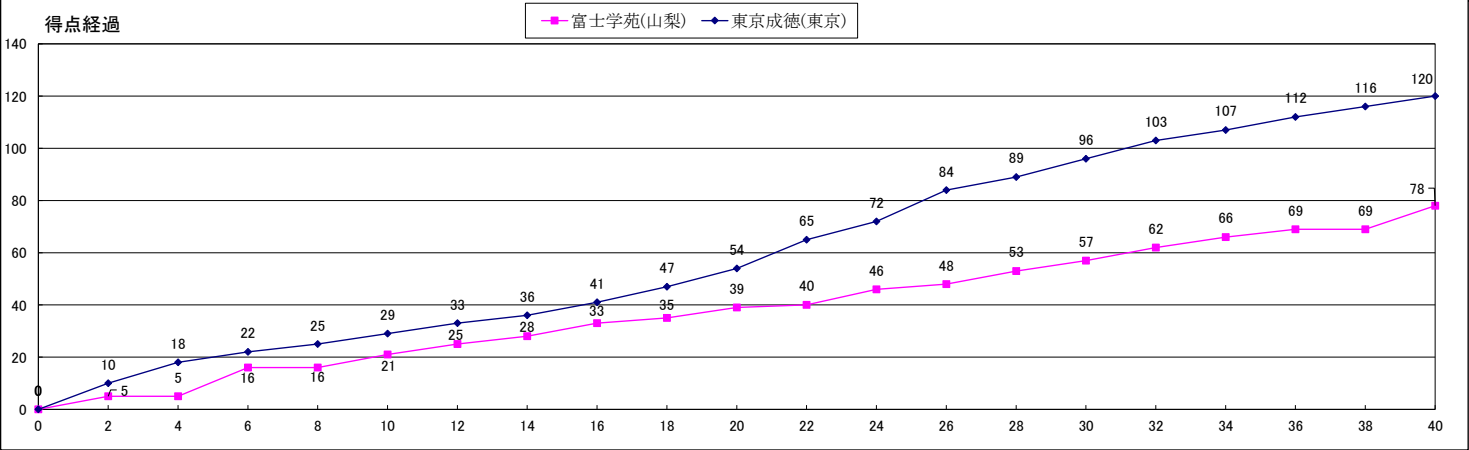
試合No.	C3	大会名	令和4年度 第33回関東高等学校バスケットボール新人大会										
		期 日	令和5年2月11日(土)				会 場		小田原アリーナ				
女子1回戦		CC	穂川 苑子			U1		有坂 明子		U2		栗田 賢吾	
		チーム名					1Q	2Q	3Q	4Q	OT1	OT2	Final Score
		東京成徳(東京)					29	25	42	24			120
		富士学苑(山梨)					21	18	18	21			78

東京成徳(東京)

氏 名	NO	得点	3PTS			2PTS			FT			REBOUNDS		A	ST	BS	TO	F
			成功	試投	AVG.	成功	試投	AVG.	成功	試投	AVG.	OR	DR					
奥山 奈津(CAP)	* 4	18	0	0		8	9	89%	2	2	100%	3	5	0	0	0	3	3
高松 花菜	* 5	13	1	3	33%	5	5	100%	0	0		0	2	1	2	1	2	4
野崎 楓	* 6	9	1	2	50%	3	7	43%	0	0		0	2	2	0	0	1	1
山内 晴恵	* 7	14	0	0		6	9	67%	2	3	67%	2	4	2	1	0	4	3
岡田 愛羽	8	2	0	1	0%	1	3	33%	0	0		0	2	4	2	0	1	2
福田 ひより	9	2	0	0		1	3	33%	0	0		1	0	0	0	1	0	0
谷川 美音	10	19	0	1	0%	7	12	58%	5	8	63%	5	3	2	4	1	0	0
鈴木 若菜	* 11	25	7	9	78%	2	4	50%	0	0		0	1	2	0	1	0	0
加藤 凜音	12	5	1	3	33%	1	3	33%	0	0		0	1	0	1	0	2	0
恵良 みちる	13	12	0	1	0%	6	7	86%	0	1	0%	0	0	0	1	2	1	1
今井 ひまり	14	1	0	0		0	0		1	2	50%	1	0	0	1	0	0	0
安井 鈴乃	15	0	0	0		0	1	0%	0	0		0	0	0	1	0	0	0
泉 恋菜	16	0	0	0		0	0		0	0		0	0	0	0	0	1	1
薩本 ララ子	17	0	0	0		0	0		0	0		0	0	0	0	0	0	1
黒岩 美悠	18	0	0	1	0%	0	2	0%	0	0		0	0	0	1	0	0	1
コーチ 小林 康裕																		
合計		120	10	21	48%	40	65	62%	10	16	63%	12	20	13	14	6	15	17

富士学苑(山梨)

氏 名	NO	得点	3PTS			2PTS			FT			REBOUNDS		A	ST	BS	TO	F
			成功	試投	AVG.	成功	試投	AVG.	成功	試投	AVG.	OR	DR					
高村 美空(CAP)	* 4	11	0	0		3	11	27%	5	6	83%	3	0	0	1	0	2	2
若松 茜	5	2	0	0		1	2	50%	0	0		0	0	1	0	0	1	0
白須 愛叶	* 6	15	4	8	50%	0	4	0%	3	3	100%	0	1	4	0	0	4	2
天野 希咲	* 7	23	0	2	0%	9	22	41%	5	8	63%	1	6	1	0	0	1	4
勝俣 結	* 9	13	0	0		6	6	100%	1	2	50%	1	0	1	0	0	3	2
古屋 蒼依	* 10	12	2	4	50%	2	9	22%	2	3	67%	1	1	2	1	0	7	2
長田 早礼	11	0	0	0		0	1	0%	0	0		0	0	0	0	0	1	1
奥脇 花夢	12	2	0	0		1	1	100%	0	0		0	0	0	0	0	0	1
コーチ 羽田 雅音																		
合 計		78	6	14	43%	22	56	39%	16	22	73%	6	8	9	2	0	19	14



戦評

1Q 両チームマンツーマンディフェンスでスタート。序盤は両チームともシュートがよく入り点を取り合う展開となる。しかし、富士学苑が東京成徳の高さの前に思うようにオフェンスができなくなると、東京成徳がリズムを掴み10点リードする。6分30秒富士学苑タイムアウト。富士学苑はテンポの良いパス回しから得点を重ねることに成功。一方東京成徳はインサイドを中心に攻め得点を重ねる。東京成徳29ー21富士学苑で1Q終了。

2Q 富士学苑は1対1を中心に攻撃を展開し、東京成徳はインサイドとスクリーンプレイを中心に攻撃をする。両者要所で得点を重ね、一進一退の攻防が続く。4分東京成徳タイムアウト。東京成徳はディフェンスから速攻で連続得点に成功。2分58秒富士学苑タイムアウト。決定的な場面はないものの両者着実に点数を重ね前半終了。東京成徳54ー39富士学苑。

3Q 富士学苑はハーフコートマンツーマンディフェンス、東京成徳はオールコートマンツーマンでスタート。東京成徳はプレッシャーをかけ相手のミスを誘い、ボールを奪うとインサイドにボールを集め得点をする。得点差が22点に開いたところで8分24秒富士学苑タイムアウト。タイムアウト後、富士学苑は積極的の#7、#4を中心に1対1を仕掛けるもミスになってしまう。一方リズムを掴んだ東京成徳はインサイドを基点に#11が3ptsを決めリードを広げる。東京成徳96ー57富士学苑で3Q終了。

4Q 富士学苑の連続得点から始まり反撃にかかる。しかし、東京成徳はディフェンスのプレッシャーを強め相手のミスを誘うと速攻から得点を重ねる。富士学苑は東京成徳の高さの前にリバウンドが取れずに苦しい時間帯が続く。その中でも#7が1対1やリバウンドで粘りを見せ得点をする。東京成徳は交代した選手も自分の役割をしっかりとこなし、試合を進めた。東京成徳120ー78富士学苑で試合終了。